

第2回大刀洗町自分ごと化会議 議事要旨

日時	2021年12月19（日）13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
会議参加者	出席者数16名（欠席者数8名）
大刀洗町	町長、副町長、総務課長 事務局：総務課 説明担当課：住民課
コーディネーター	荒井英明（神奈川県工業内陸団地事務局長、構想日本特別研究員）
ナビゲーター	櫛田豊久（アミタ 経営戦略補佐 KOUプロジェクトマネージャー）
ナビゲーター補助	高田大輔（アミタ 大刀洗現地事務所常駐員）
補助スタッフ	石渡秀朗（構想日本特別研究員）

概要

1. 開会
2. アイスブレイク
 - 前回の振り返り（コーディネーター 構想日本 荒井）
 - 本日の会議の流れ（コーディネーター 構想日本 荒井）
 - テーブル内での自己紹介（グループワーク ファシリテーター）
※班分けはくじ引き
3. 全体説明
 - なぜごみを減らさなければならないのか？（住民課）
 - 3R+Cに関する話題提供「ゴミの減量にむけた地域・民間の取組み」
(ナビゲーター：アミタ株式会社 櫛田氏)
4. 質疑応答（13:45）
 - 全般的な質疑応答
5. 全体会（13:50）コーディネート：荒井
 - 協議のポイント提示
 - ▼前回出ていた論点となりそうな意見
 - ・「自分のごみを減らすこと」を「社会全体でごみを減らすこと」に繋げるには？
 - ・「資源回収が月1ではごみを自宅に保管することが難しい」
 - ▼住民課とナビゲーターからの話題提供内容
 - ・「ごみを減らさなければならない理由」のポイント
 - ・「3R+Cの話題提供」から得た論点となりそうなポイント
 - グループワークの進め方説明
< 休憩 >
6. グループ協議 ファシリテート：地域振興課・住民課
 - グループごとに、テーマにもとづいて話し合い
 - グループ協議結果の全体共有
 - ①「一日50gのごみを減らすなら、何を減らす？」
 - テーブル協議→発表（グループ代表）・共有

(席替え)

②「あなたにとって“本当のごみ”って何ですか？」

テーブル協議→発表（グループ代表）・共有

(席戻り)

③「“本当のごみ”以外のごみを、ごみにしないために自分や地域には何ができる？」

テーブル協議→発表・共有

※②テーマに行く際に席替え。③に行く際に自分の席に戻る。

※一つのテーマ協議が終わるごとに、各テーブルから協議内容を発表。

< 休憩 >

7. 全体会 コーディネート：荒井

○本日の協議結果の振り返りと総括

○改善提案シート、アンケート記入

8. 事務連絡

9. 閉会

<今後のスケジュール>

第3回会議：令和4年1月16日（日）13：00～16：00

第4回会議：令和4年2月19日（土）13：00～16：00

会議内容

1. 開会 13:00~13:05

(1) 開会 (今林) 以下、進行も今林氏

- ・資料確認
- ・コーディネーター、ナビゲーター紹介
- ・グループ協議においてクラフト資に意見を記入することを案内
- ・その他事務連絡

2. アイスブレイク 13:05~13:15

○前回の振り返り (コーディネーター 構想日本 荒井)

- ・ごみを減らすための工夫についてアンケート (イントロとして荒井さんから質問)

問1：ゴミのことについて考えた？

　　すごく考えた △

　　少し考えた ◎

　　あんまり考えなかった ×

問2：ゴミのことを周りの人に話した

　　たくさん話した △

　　少し話した ◎

　　あんまり話さなかった ×

- ・～くじ引き民主主義の時代へ～紹介

　　伊藤伸氏の簡単な紹介と本の紹介

- ・自治未来塾の紹介

　　構想日本の新たな取組としての自治未来塾を紹介

○本日の会議の流れ (コーディネーター 構想日本 荒井)

　　“3R+C”を中心に行なう、「なぜごみを減らす必要があるのか」を議論したい。

○テーブル内での自己紹介 (グループワーク ファシリテーター)

　　大刀洗町があらかじめ決めた班 (各テーブル) ごとに大刀洗町のファシリテーターの進行で自己紹介

3. 全体説明

○なぜごみを減らさなければならないのか？ (住民課 入江氏) 13:15~13:20

　　資料に基づき、下記説明がされた。

- ・大刀洗町のごみの量も増加傾向にある。
- ・気候変動 (地球温暖化) に対応する必要について

　　地球温暖化のメカニズム、豪雨災害 (大刀洗町においても5年連続豪雨災害に見舞われていること) や北極海氷減少など海面の上昇などの影響とごみの減量化により地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量削減に寄与することが説明された。

- ・海洋プラスティックごみ問題について

　　このままでは5年後に海洋プラスティックごみの量が魚の量を上回ると言われていること、その改善のために3Rの推進が必要である。一例として資料によりペットボトルのリサイクル方法について、その効果を説明された。

- ・サンポート（廃棄物処理施設）の寿命について

ごみの減量により、サンポートへの負荷を減らし、寿命を延ばす必要があることが説明された。

- ・ごみ処理費用の削減について

毎日、50グラムの削減で、町全体で年間288トンの削減、20,000千円の経費削減につながることがせつめいされた。

そのために“3R+C”が重要であることを説明した。

○3R+Cに関する話題提供「ゴミの減量にむけた地域・民間の取組み」 13:20~13:35

(ナビゲーター：アミタ株式会社 櫛田氏)

- ・生きていくことでどうしても付き合わなければならないごみを通じて、コミュニケーションを作ることが我々の課題。
- ・地域共生社会を作ることが目的で、ごみ処理はその手段と考えている。
- ・“3R+C”的C（コミュニティ）にフォーカスした手段が“MEGURU STATION”である。
- ・MEGURUの設置場所について、住民と相談したい。例えば、小学校区単位。
- ・MEGURUには2つの機能がある。“MEGURU CHARGE”と“MEGURU BAZAAR”。
- ・資料と南三陸町、生駒市の事例紹介によって“MEGURU BAZAAR”を地域コミュニティの場として活用する可能性を説明。
- ・コストについては、行政に依存しないことを基本としている。
- ・既存のごみ処理経費（2.9億円）の削減分の一部を“MEGURU STATION”に充てたい。
- ・地域コミュニティの場とし手の活用で、介護給付費の削減も期待できるので、その一部を“MEGURU STATION”に充てたい。

4. 質疑応答 13:35~13:40

質問：南三陸の現状は？

回答（櫛田）：実証実験したもので、現在は実施していない。

質問：生駒市は？

回答（櫛田）：生駒も実証実験中で、成果は今後検証していく途中。

質問：“3R+C”は一般的概念か？

回答（荒井）：3Rの推進のために不可欠なC（コミュニティ）という概念で、全国では例がない。大刀洗町発祥の概念として全国に発信していきたい。

5. 全体会 コーディネート：荒井 13:40~13:55

○協議のポイント提示

- ・1日1人50gのごみを減らすために何を減らせるのか？
- ・あなたにとって本当のごみとは？
- ・本当のごみ以外のごみについて「自分のごみを減らすこと」を「社会全体でごみを減らすこと」に繋げるには？

○グループワークの進め方

GW①@30分→(席替え)→GW②@30分→(席戻し)→GW③@30分

< 休憩 >

6. グループ協議 (14:10) ファシリテート: 地域振興課・住民課 @90分

○グループごとに、テーマにもとづいて話し合い

○グループ協議結果の全体共有

①「一日50gのごみを減らすなら、何を減らす?」

テーブル協議20分→発表・共有10分

(席替え)

②「あなたにとって“本当のごみ”って何ですか?」

テーブル協議20分→発表(グループ代表)・共有10分

(席戻り)

③「“本当のごみ”以外のごみを、ごみにしないために自分や地域には何ができる?」

テーブル協議20分→発表(グループ代表)・共有10分

※②テーマに行く際に席替え。③に行く際に自分の席に戻る。

※一つのテーマ協議が終わるごとに、各テーブルから発表の時間を設ける。

【グループ協議メモ】

① 「一日50gのごみを減らすなら、何を減らす?」

«A班» ファシリテーター: 総務課 総務秘書係 今林美子 ※代表者報告からメモ

- ・不要な印刷物、お知らせの紙がごみになる。
- ・スマホで情報共有すれば紙は減らせる。
- ・市の広報誌や観覧版もデジタルにすることでごみは減る。
- ・家庭事情によって出るごみも違う。
- ・水切りが大事。
- ・シャンプーなどは中身より容器のほうが高い。

«B班» ファシリテーター: 住民課 生活環境係長 入江由香里 ※代表者報告からメモ

- ・無駄な買い物をしない。
- ・生ごみを減らすことはできそう。特に水切りが大切。

«C班» ファシリテーター: 住民課長 矢永孝治 ※代表者報告からメモ

- ・炭酸ストリームの活用でペットボトルを減らすことができる。

«D班» ファシリテーター: 住民課 生活環境係 山本和慶 ※石渡が直接傍聴しメモ

- ・夫婦2人で生ごみをコンポストで180g/日削減している。
- ・大根の皮をみそ汁に入れる。
- ・桃の皮も食べる。

- ・生ごみは包装以外ごみではない。
- ・農家をしているが、生ごみは埋めて土に返すからごみとして出さない。
- ・生活もデジタル化が進み、紙媒体のごみも出ない。
- ・包装がゴミとして出る。過剰包装が気になる。
- ・家電は包装のまま受け取らないと返品できない仕組みで、それを変えたいが…
- ・子どもたちも紙をやめてタブレットにすればいいが、毎日持つて帰れるわけではない。
- ・ママ友のLINEグループで情報交換している。
- ・ママ友のグループに入れない問題（誹謗中傷等）もある。
- ・学校からの情報は、一方通行でいいから、デジタルでの情報提供がほしい。
- ・分別、リサイクルの方法を広く知らせることが大切。
- ・分別が大事で、分別ができないからごみになる。分別の徹底をすることが大切。

② 「あなたにとって“本当のごみ”って何ですか？」

«A班» ファシリテーター：総務課 総務秘書係 今林美子 ※代表者報告からメモ

- ・リサイクルできないもの。
- ・子どものときのお雛様。
- ・電球など処理困難物→LEDに変えることで減らせることができる。
- ・タバコの吸い殻。

«B班» ファシリテーター：住民課 生活環境係長 入江由香里 ※石渡が直接傍聴しメモ

- ・プラスティック容器→リサイクルできるごみではない（大刀洗町職員指摘）。
- ・紙おむつ、使い捨てカイロ。
- ・使わぬもの、リサイクルできないもの、飽きたもの。
- ・容器包装でないプラスティック。
- ・われもの。
- ・使わぬものは別の人を使つてもらう可能性がある。
- ・分別が面倒だと思う気持ちが“本当のごみ”。

«C班» ファシリテーター：住民課長 矢永孝治 ※代表者報告からメモ

- ・弁当のラベルがはがしにくい。
- ・子どものころは麦わらでストローを作つた。
- ・水を買う時代、昔はペットボトルなんてごみはなかった。
- ・ウォーターサーバーを使つてるのでペットボトルはあまり出さない。
- ・井戸の時代は良かった。
- ・本当のごみはバッテリー。
- ・原子炉。

«D班» ファシリテーター：住民課 生活環境係 山本和慶 ※代表者報告からメモ

- ・自分で使わなくなったもの。
- ・われもの。

- ・リサイクルを使うエネルギーがそのために地球環境を悪化させるようでは本末転倒。リサイクルの方法、コスト、地球負荷を考えるべき。

③ 「“本当のごみ”以外のごみを、ごみにしないために自分や地域には何ができる？」

«A班» ファシリテーター：総務課 総務秘書係 今林美子 ※代表者報告からメモ

- ・ごみをごみと思わず資源ととらえるまちづくり。
- ・ごみの“地産地消” 地消=資源化。
- ・不用品の情報交換の場がほしい。
- ・コミュニティはごみのことを含めた知識を持ち寄る場。
- ・近所付き合いが少なくなった時代に、地域でリサイクルに取り組んでくれることは嬉しい。
- ・ごみの分別方法が50音順で大刀洗町のホームページに載っている…それを知らない人が多い。
- ・分別の徹底は大事。
- ・久留米のクリーンセンターのおじさんは優しい、なんでも捨てられる、足湯もある 大刀洗にもほしい。
- ・MEGURUに期待したい。

«B班» ファシリテーター：住民課 生活環境係長 入江由香里 ※代表者報告から

- ・ごみの分別の知識を持つことが大事。
- ・ごみにしないことが大事で、そのための知識も大事。
- ・「新品じゃなければ」という気持ちの変革が大事。
- ・不要なものの（情報）交換の機会を作ってほしい。

«C班» ファシリテーター：住民課長 矢永孝治 ※石渡が直接傍聴しメモ

- ・リサイクルできるものは本当のごみではないが、ごみとして出してしまっている。地域で解決できる。
- ・分別に時間がかかることが問題。
- ・ペットボトルや缶はペシャンコに潰してほしくない（ファシリテーター発言）。
- ・分別を徹底することが重要。
- ・集団回収を地域で積極的に行うことが重要。
- ・イオンにある回収ボックスが地域にあるといい。
- ・金になる資源は回収できる（ファシリテーター発言）。
- ・新聞紙などは廃品回収できる。
- ・イオンの回収ボックスに入れちゃいけないものを捨てている主婦がいる。
- ・自動販売機の回収ボックスも入れちゃいけないものを入れるので、台数が減っている。
- ・コンビニのごみ入れも減っている。
- ・貝殻など、生ごみを使うことでごみじゃなくなる。
- ・気軽にごみを出せる場所がほしい。

«D班» ファシリテーター：住民課 生活環境係 山本和慶 ※代表者報告から

- ・ごみの分別の知識（情報）を持つことが大事。
- ・ホームページでの分別の知識が得られる工夫があるといい。
- ・集積場への搬入にインセンティブがあると嬉しい。

< 休憩 >

7. 全体会（15：45）コーディネート：荒井 @10分

○本日の協議結果の振り返りと総括 @5分

- ・グループ分けで充実した会議ができた。
- ・村田課長が議論をまとめてメモしてくれている。参加者と共有できることが素晴らしい。
- ・孫のベビーベッドを親戚にリクエストしたら、子どもに買ってあげたベッドが戻ってきた。こうしたサイクルを地域コミュニティで回していく事が“3R+C”的だと思う。
- ・今後、大刀洗町でCを積極的に考えていただくことを期待する。

○改善提案シート、アンケート記入 @5分

8. 事務連絡（15：55）

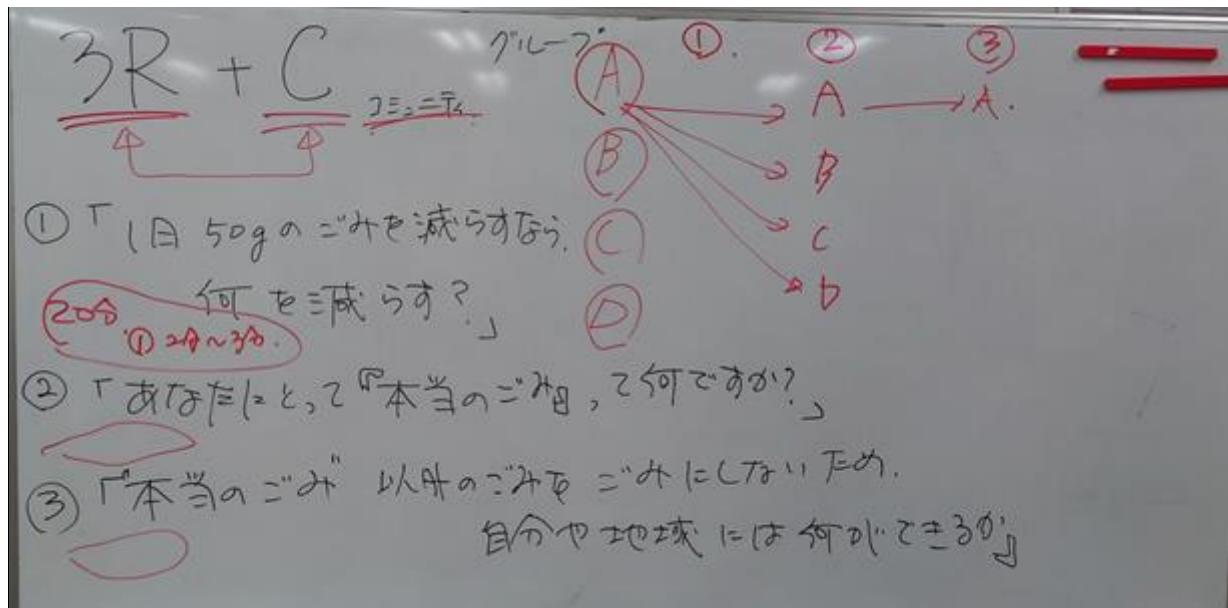
<今後のスケジュール>

第3回会議：令和4年1月16日（日）13：00～16：00について確認。

9. 閉会（16：00）

ホワイトボード、クラフト紙の写真

1枚目 荒井コーディネーター作成：進め方説明図



2枚目 村田課長作成：全体説明のうち

「○なぜごみを減らさなければならないのか？（住民課）」説明グラレコ

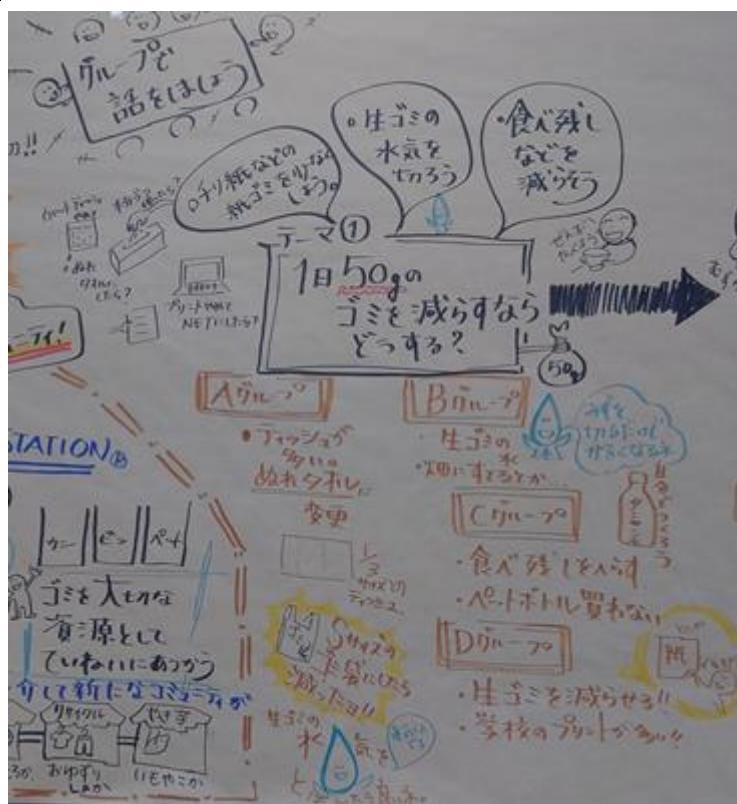


3枚目 村田課長作成：全体説明のうち

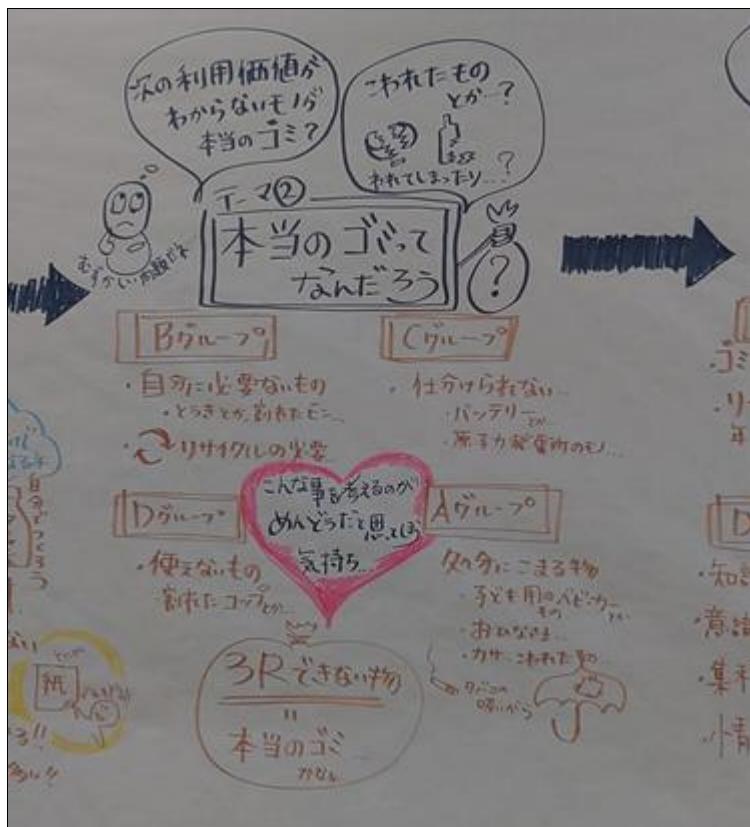
「3R+Cに関する話題提供「ゴミの減量にむけた地域・民間の取組み」(アミタ櫛田氏)」プレゼングラレコ



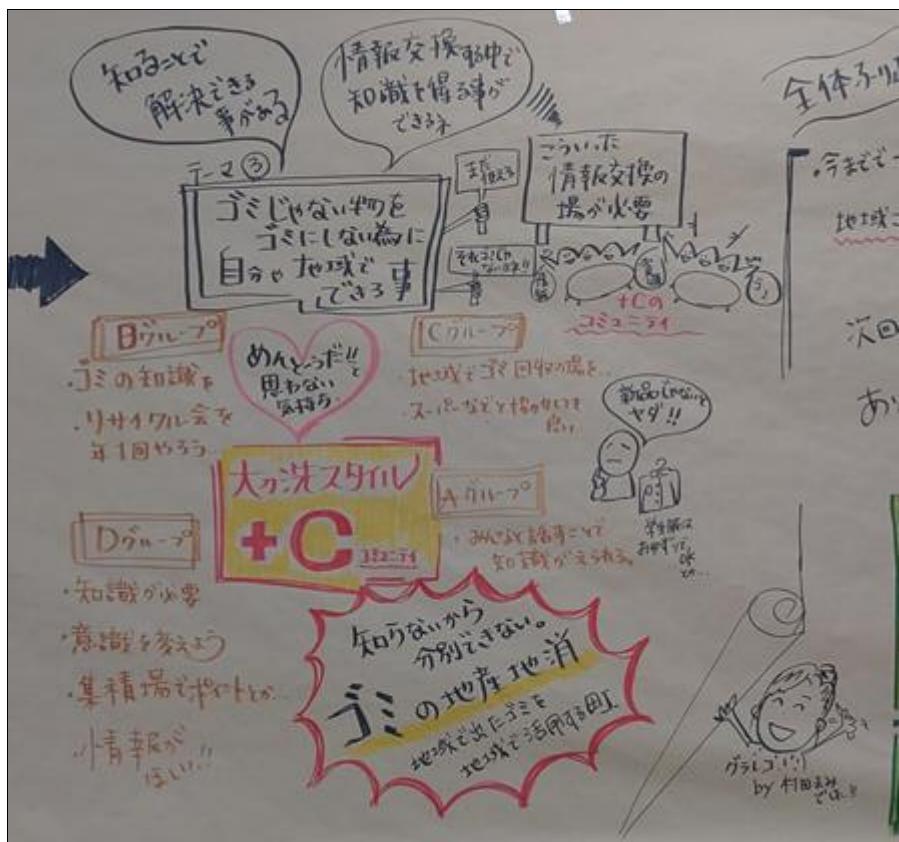
4枚目 村田課長作成：テーマ①「一日50gのごみを減らすなら、何を減らす？」グループ協議グラレコ



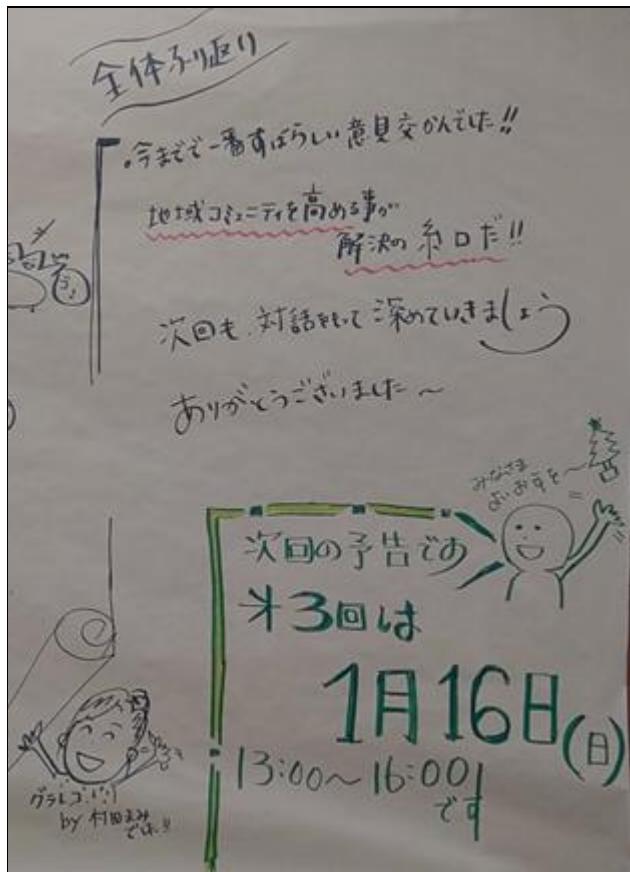
5枚目 村田課長作成：テーマ②「あなたにとって“本当のごみ”って何ですか？」
グループ協議グラレコ



6枚目 村田課長作成：テーマ③「“本当のごみ”以外のごみを、ごみにしないために自分や地域には何ができる？」グループ協議グラレコ



【7枚目】 村田課長作成：全体会「全体の振り返り」、「次回予定」説明グラレコ



以上